

厚生労働省
群馬労働局発表
平成30年1月30日

【照会先】

群馬労働局労働基準部健康安全課
課長 佐藤 寿
課長補佐 大友 隆
産業安全専門官 塩野 泉
(電話) 027-896-4736

平成29年(1月～12月)の労働災害発生状況【速報値】

— 死傷者数2,079人・死亡者数19人 —

1 労働災害の発生状況 (参考資料:「労働者死傷病報告受理件数表」「平成29年死亡災害事例」)

群馬労働局管内における平成29年の労働災害による休業4日以上死傷者数は、1月から12月までの累計で2,079人、そのうち死亡者数は19人となっています。死亡者数の「事故の型別」による内訳人数では、多い順に、「はさまれ・巻き込まれ」6人、「交通事故」5人、「墜落・転落」2人でした。

【昨年同期に比較した特徴】

- ・ 死傷者数は107人減少 (昨年同期の2,186人より4.9%減少)
- ・ 「転倒」による死傷者数は153人減少 (昨年同期の571人より26.8%減少)
- ・ 死亡者数は5人増加 (昨年同期は14人)
- ・ 製造業における死亡者数は3人増加 (昨年同期は3人)
- ・ 「はさまれ・巻き込まれ」「交通事故」による死亡者数がそれぞれ2人増加

2 労働災害の防止に向けた取組

(参考資料:「転倒無し運動」「転倒災害防止のための取組を！」)

①12月は7か月振りに死亡者数ゼロ

- ・ 12月は「年末年始無災害運動」「建設業における墜落・転落災害防止対策強化キャンペーン」等を提唱し、災害防止関係団体、各種業界団体、事業場労使による取組とご尽力により、5月以来、7か月振りに死亡者数が0人となりました。

②死亡災害の防止について

- ・ 群馬労働局管内において「はさまれ・巻き込まれ」による死亡災害が多発した状況を踏まえ、製造業の事業場を対象とする個別指導を実施しました。
機械の原動機や回転軸、歯車、ベルト等への覆い・囲い等の設置、機械の掃除等の場合における運転停止、粉砕機へ原材料を投入する場合における運転停止等の「はさまれ・巻き込まれ」を防止するための措置が不十分だったケースについて、使用停止命令等の行政処分や是正・改善のための指導を行いました。

③転倒災害防止強調期間(1月～3月)【再掲】

- ・ 積雪や凍結等により転倒の危険が高まる冬季における転倒災害を防止するための具体的対策の取組について、災害防止関係団体への要請、各種団体への広報等による周知・啓発活動を行いました。

平成29年 労働者死傷病報告受理件数表

平成29年12月末現在
群馬労働局

業種別	署別	高崎	前橋	桐生	太田	沼田	藤岡	中之条	群馬局計	前年同期	増減
製造業		1	2		2		1		6	3	3
		118	229	42	196	23	31	5	644	723	-79
食料品製造業		45	87	5	38	12	9	2	198	225	-27
鉱業			2					1	3	2	1
建設業		61	63	16	45	13	8	16	222	195	27
	木造家屋等建築工事	17	19	4	6		2	2	50	36	14
交通運輸・貨物取扱業		53	139	14	62	3	13	8	292	323	-31
	道路貨物運送業	37	123	12	56	2	11	7	248	272	-24
林業		1		9	1	2	2	4	1	1	-2
		8							26	28	
上記以外の事業		1	1	1	1		2		6	5	1
		232	337	54	146	57	29	37	892	915	-23
	卸売業・小売業	82	102	21	36	14	9	2	266	282	-16
	通信業	16	21	1	4	3	2	2	49	67	-18
	医療保健業・社会福祉施設	50	68	15	29	10	7	7	186	157	29
旅館・ホテル業	4	13			4		8	29	35	-6	
計		3	6	1	4	1	3	1	19	14	5
		472	770	135	450	98	83	71	2,079	2,186	-107
前年同期		1	7		2		1	3	14		
		456	854	138	476	78	107	77	2,186		
増減		2	-1	1	2	1	2	-2	5		
		16	-84	-3	-26	20	-24	-6	-107		

災害の種類別

災害の種類別・署別	高崎	前橋	桐生	太田	沼田	藤岡	中之条	群馬局計	前年同期	増減
転倒災害	87	152	30	91	22	16	20	418	571	-153
食料品加工用機械災害	12	1	3	4	2	1		34	41	-7
建設機械災害	5	6	2	6			1	21	19	2
クレーン・玉掛災害	16	11	1	10		1	1	41	40	1
外国人の災害	12	50	2	44	1	3	1	113	113	
公共工事の災害	11	1	1	3	3		1	37	42	-5
交通労働災害	24	2	10	24	8	8	1	135	128	7
荷主先災害	16	72	7	7		7	4	113	111	2

注1 この表は、死亡及び休業4日以上労働者死傷病報告を集計しています。

注2 各項目の下欄は死傷者数合計、上欄は死亡者数で下欄の数の内数です。

注3 下の表は災害の種類別で、特に項目を設定して集計しています。

平成29年死亡災害事例（建設業以外）

平成29年12月末現在

群馬労働局

番号	発生月 発生時間帯 労働者数	年齢 性別 職種	災害のあらまし	業種	事故の型別	起因物別
1	1月 11時頃 4人	60歳代 男 作業員	太陽光発電設備設置のための造成工事現場において、立木の伐採作業に従事していた被災者が、胸高直径約30cmの伐倒木の下敷きになっているのを発見された。	その他の林業	崩壊・倒壊	立木等
2	1月 15時頃 4人	50歳代 男 運転手	軽四貨物トラックを運転していた被災者が、対向車線のセンターラインオーバーの大型トラックと正面衝突した。	一般貨物運送業	交通事故（道路）	トラック
3	2月 9時頃 28人	40歳代 男 修理工	自動販売機の修理のため、社用車のバンを運転し首都高速を走行中、前のトラックに視界を遮られ右側に車線変更したところ、すぐ右横にトラックが故障で停止しており、そのまま激突した。	機械修理業	交通事故（道路）	トラック
4	2月 8時頃 28人	60歳代 男 作業員	午前7時頃からゴルフ場内の落葉の処理作業をトラクターで行っていたが、その後、行方が分からなくなり、翌日、池の中から遺体で発見された。	ゴルフ場	おぼれ	水
5	3月 19時頃 47人	50歳代 男 営業	営業担当であった被災者は、製品の納品や立会い業務等によって、恒常的な長時間労働、深夜労働、休日出勤となり、大動脈解離を発症し、死亡した。	その他の小売業	その他	起因物なし
6	4月 17時頃 60人	20歳代 男 作業員	工場内において、派遣労働者と2人でプレス（400t、クランクプレス）加工作業中、被災者が金型内に頭を入れている時、派遣労働者がプレスを起動させ、被災者が頭をプレス機にはさまれ、死亡した。	自動車・同付属品製造業	はさまれ・巻き込まれ	プレス機械
7	6月 13時頃 60人	40歳代 男 作業員	製造した機械装置のメンテナンスのため、同僚と2人で県外の客先へ出張し、調整作業中の機械装置に頭部をはさまれ、死亡した。	機械器具製造業	はさまれ・巻き込まれ	その他の一般動力機械
8	8月 2時頃 68人	30歳代 男 作業員	被災者は、製品を自動倉庫（冷凍庫）内に入庫する作業中、走行してきた倉庫内に設置されていたスタッカークレーン（自動棚積み用）と冷凍庫出入り口の固定踏み台との間に身体をはさまれ、死亡した。	肉製品・乳製品製造業	はさまれ・巻き込まれ	クレーン
9	8月 5時頃 31人	40歳代 男 運転手	荷の配送のため大型トラックで国道を走行中、交差点で大型トレーラーと衝突し重体となっていたが、約1ヶ月後に死亡した。	一般貨物運送業	交通事故（道路）	トラック
10	8月 8時頃 90人	40歳代 男 警備員	道路標識交換現場において、車線規制に伴う交通整理を行っていたところ、乗用車に背後からはねられ、病院へ搬送されるも、8日後に死亡した。	警備業	交通事故（道路）	乗用車、バス、バイク

平成29年死亡災害事例（建設業以外）

平成29年12月末現在
群馬労働局

番号	発生月 発生時間帯 労働者数	年齢 性別 職種	災害のあらまし	業種	事故の型別	起因物別
11	9月 11時頃 2人	60歳代 男 警備員	国道歩道舗装工事現場近隣の別会社敷地内に駐車してあった無人トラックが逸走し、工事現場内の国道中央付近で一般車両の交通誘導をしていた被災者が、トラックに轢かれ死亡した。	警備業	交通事故 (道路)	トラック
12	9月 10時頃 11人	50歳代 男 作業員	1人で設備の清掃、点検作業をしていた被災者が、ベルトコンベアーとホッパー先端に固定されている原料飛散防止用のゴムカバーの間に、首が挟まれた状態で発見された。死因は出血性ショック。	化学工業	はさまれ・ 巻き込まれ	コンベア
13	9月 10時頃 5人	40歳代 男 作業員	被災者を含む5名で、空き地の除草作業を行っていたところ、乗用式草刈機を使用して作業を行っていた被災者が、草刈機の下敷きになっているところを発見され病院に搬送されたが、災害発生当日の午後4時30分頃死亡した。	農業	はさまれ・ 巻き込まれ	その他の一 般動力機械
14	10月 11時頃 30人	50歳代 男 運転手	被災者は、荷主先構内で荷降ろし準備作業のため、トラック後方の観音扉を開けた。その後、待機していた荷主先事業場のフォークリフト運転手が、トラック内の荷を取り戻しようとして振り返ったところ、アスファルト舗装の路面に仰向けで倒れている被災者を見つけた。救急搬送された病院で、頭部打撲による頭蓋骨骨折、急性硬膜下血腫により死亡した。	一般貨物 運送業	分類不能	分類不能
15	11月 9時頃 10人	60歳代 男 作業員	派遣先工場の大根おろし製造工程において、作業終了後、加熱攪拌釜の内部を、攪拌羽根を回転させたまま、ホース水流で洗浄していたところ、頭部を攪拌羽根と釜の間にはさまれ、死亡した。	農業保存 食料品製 造業	はさまれ・ 巻き込まれ	食品加工用 機械
16	11月 14時頃 16人	40歳代 男 作業員	1階建て鉄筋コンクリート造の屋根に溜まった落ち葉の掃除が終了したので、立て掛けてあった移動はしごから降りようとしたところ、約2.6mの高さから墜落し、死亡した。	その他 の事業	墜落・転落	はしご等

平成29年死亡災害事例（建設業）

平成29年12月末現在
群馬労働局

番号	発生月 発生時間帯 店社人数・現場人数	年齢 性別 職種	災害のあらまし	発注者	事故の型別	起因物別
1	7月 15時頃 5人	40歳代 男 鳶工	高速道路の橋梁補修工事で使用されていた、地上約33mの高さに設置されていたつり足場の解体作業中、足場用つりチェーンのクランプがはずれ、足場板が傾き、足場板の上に載っていた被災者が33m下の地面に墜落し死亡した。	民間	墜落・転落	足場
2	9月 8時頃 35人	70歳代 男 作業員	高さ約10mに積まれた残土の上にドラグ・ショベルで上がり整地作業中、ドラグ・ショベルが土砂に埋まり傾き転倒し、被災者が運転席から投げ出されドラグ・ショベルの下敷きとなり死亡した。	公団	転倒	車両系建 設機械
3	10月 17時頃 7人	60歳代 男 作業員	水力発電所の導水路の補修作業に伴い、内燃機関付高圧水洗浄機により、ずい道の内壁の洗浄作業を行っていたところ、内燃機関の発する一酸化炭素により意識を消失し、その後死亡した。	県	有害物等 との接触	有害物

転倒 無し運動

テ ン ト ウ ム シ




冬季転倒災害防止運動

★1月～3月は冬季転倒災害防止強調期間です！！★

10cm 以上の降雪で凍結し転倒災害が増加する傾向にあります。

降雪後の除雪、融雪対策は早めに行いましょう！！

～転倒災害防止の5か条～

- 1 **ポケットに手を入れて歩かない！**
- 2 **雪道や凍った道は小股で歩く！**
- 3 **路面や床面に合った靴を履く！**
- 4 **時間に余裕を持った行動をとる！**
- 5 **日頃から足腰を鍛えよう！** 

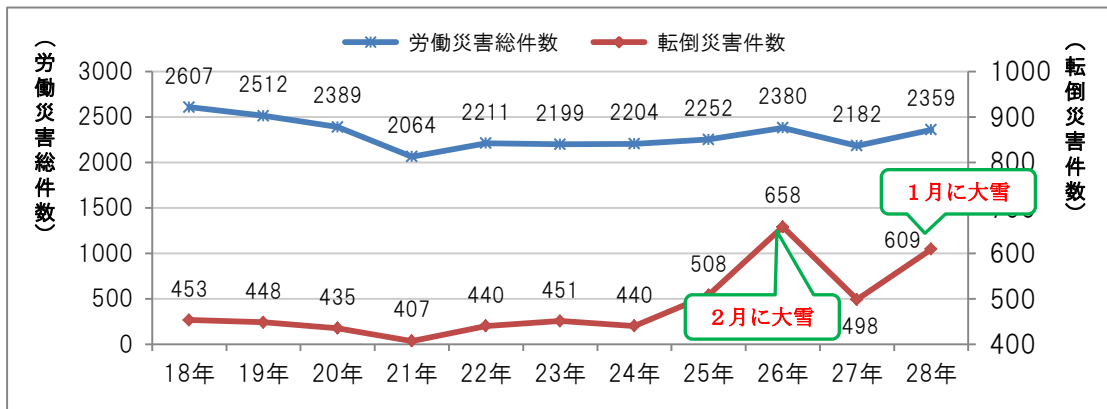
転倒災害防止のための取組を！

☆ 1月から3月は転倒災害防止強調期間です!! ☆

群馬労働局健康安全課

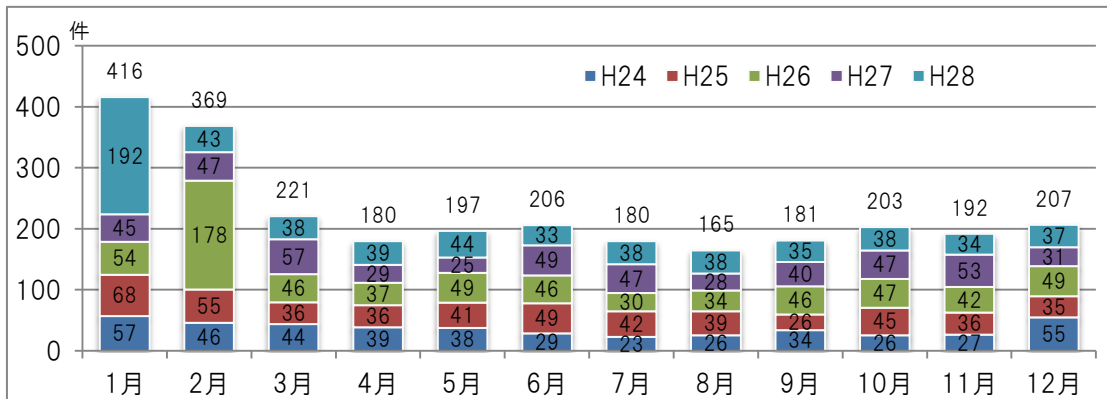
群馬県内の全産業における労働災害のうち、転倒災害が占める割合が20%以上の高率で推移している現況を踏まえ、群馬労働局では、平成28年から期限を設けずに『STOP! 転倒災害プロジェクト』を推進し、転倒災害が多発傾向にある1月から3月までを「転倒災害防止強調期間」として取組を強化することとしています。

過去5年間の月別の災害発生状況で見ると、転倒災害は1月と2月に多く発生しています。これは、転倒災害の発生が、業務自体に起因するほか、降雪等の気象条件に大きく影響されていることを示しています。



(図-1) 年別労働災害発生状況の推移

(労働者死傷病報告による)



(図-2) 平成24年～平成28年月別転倒災害発生状況

(労働者死傷病報告による)

積雪・凍結などによって転倒の危険性が高まる冬季、特に寒波が予想される場合は、以下の対策が重要です。

- ◇ 天気予報に気を配り、滑りにくい靴の着用を指示する等早めの対策を実施する。
- ◇ 通路や駐車場の除雪、融雪剤の散布等を行い、建物の出入口には転倒防止用マットやヒートマット等を敷く。夜間には照明設備を設けて照度を確保する。
- ◇ 転倒の危険を感じた場所の情報を収集・共有する。作業や歩行に適した履物、雪道や凍結した路面の歩き方(小さな歩幅等)について教育する。

各事業場におかれましては、転倒災害防止の意識を高め、必要な対策を実施されますようお願いいたします。